

こませカレンダーの見方

このカレンダーは、西流時における礼田埼と備讃東航路第 5 号灯浮標付近のこませ網操業状況をこませ情報・水温・過去の実績などを参考に予想したものです。

[illegible]

A	旧 暦	特に漁業関係では大潮・中潮・小潮など、潮の流れが大きく影響する。 この潮の流れを判断するには旧暦が便利。操業開始は旧暦の 13・29
B	日出没時間	上段は日出時間、下段は日没時間（高松港基準）
C	転流時間	日出から日没間の転流時間。（投網、揚網時間の基準となる。）
D	操業回数	こませ網の一日の操業回数。
E	水 温	上段は過去 3 年間の平均水温、下段は去年の水温。（高松屋島沖水温） イカナゴの適水温は 8℃～16℃、フグの適水温は 12℃～14℃。
F	底曳き網の 休 漁 日	高松中央卸売市場の休市日、日祭日と第 2、第 4 水曜日の前日。 備讃東航路第 5 号灯浮標西方では、操業水域の協定があるため、 底曳きの操業日には底曳きの通航路を空ける。 したがって、底曳きの休漁日は、こませ網により閉塞される可能性大。
G	備讃瀬戸潮流 こませ操業時間	日出～日没間の潮流を表示。 ・早朝又は夕方では操業しない潮は記載していない。 ・日出以前に転流がある場合、日出から操業時間として表示。 ・日没以後に転流がある場合、日没まで操業時間として表示。 ・但し、薄明等を考慮すれば、日出 30 分前、日没 30 分後、程度の 操業時間延長もある。
H	流 向	流向…西は西流、東は東流を表す。（こませ網は西流が盛漁となる。）
I	流 速	流速…操業時間内での最大流速を表示。 流速 1 ノット以下では操業統数は少ない。
J	可航水域	1～5 までの数字で表し、 最大可航幅 750m の内 1：可航幅 600m 2：可航幅 450m 3：可航幅 300m 4：可航幅 150m 5：可航幅 0m
K	困 難 度	△ → ○ → ◎ （◎印が困難度最大） ・◎印……航路入航調整日 ・○○印……A 点に大型曳船を配備する。
L	出港調整	来島海峡以東の各港からの出港船が対象。（カレンダーで○○印の日） 網の状況を把握した後（日出 3 時間後）に出港する。
そ の 他	準休漁日	こませ網の休漁日ではないが、殆ど出漁しないと思われる日。
	進路警戒船	こませ網操業期間中は全長 200m 以上で海交法に定めるもの以外の船舶 に対し、休漁日及び準休漁日以外の全ての日に警戒船を配備する。